



平成 30 年 11 月 2 日

各 位

会 社 名 五洋インテックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 大脇 功嗣
(J A S D A Q ・ コード 7519)
問合せ先
役職・氏名 取締役管理部長 檀上 浜爾
電 話 0568-76-1050

業績予想の修正に関するお知らせ

平成30年6月4日付当社「平成30年3月期決算短信」において発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期第 2 四半期（累計）の業績予想の修正について

連結業績予想数値の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想（A）	770	△55	△55	△90	△4.46
今回修正予想（B）	686	△105	△105	△148	△7.33
増減額（B－A）	△84	△50	△50	△58	—
増減率	△10.9%	—	—	—	—
（ご参考）前期第2四半期実績（平成30年3月期第2四半期）	900	△178	△212	△222	△12.08

個別業績予想数値の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想（A）	630	△45	△80	△3.96
今回修正予想（B）	550	△85	△127	△6.29
増減額（B－A）	△80	△40	△47	—
増減率	△12.7%	—	—	—
（ご参考）前期第2四半期実績（平成30年3月期第2四半期）	580	△145	△150	△8.17

- (注) 1 前回発表予想の1株当たり四半期純利益は、期中平均株式数 20,198,804 株に基づいて算出しております。
2 今回修正予想の1株当たり四半期純利益は、期中平均株式数 20,198,106 株に基づいて算出しております。

3 前期第2四半期実績の1株当たり四半期純利益は、期中平均株式数 18,428,503 株に基づいて算出しております。

2. 平成31年3月期通期の連結業績予想の修正について

連結業績予想数値の修正（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想（A）	1,900	50	50	10	0.50
今回修正（B）	1,720	△90	△90	△140	△6.93
増減額（B－A）	△180	△140	△140	△150	—
増減率	△9.5%	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成30年3月期）	1,748	△180	△213	△169	△8.76

個別業績予想数値の修正（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想（A）	1,520	15	△25	△1.24
今回修正（B）	1,350	△110	△160	△7.92
増減額（B－A）	△170	△125	△135	—
増減率	△11.2%	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成30年3月期）	1,338	△112	△99	△5.14

- （注）1 前回発表予想の1株当たり当期純利益は、期中平均株式数 20,198,804 株に基づいて算出しております。
- 2 今回修正予想の1株当たり当期純利益は、期中平均株式数 20,198,022 株に基づいて算出しております。なお、当社は平成30年10月1日付で10株を1株とする株式併合を行っておりますが、期中平均株式数につきましては併合前の株式数で算出しております。
- 3 前期実績の1株当たり当期純利益は、期中平均株式数 19,311,243 株に基づいて算出しております。

3. 修正の理由

景気は、堅調に推移した企業業績や雇用・所得環境の改善等を背景に、緩やかな回復基調が見られました。当社グループを取り巻く事業環境は、室内装飾品関連（カーテン等）市場に影響を及ぼします新設住宅着工総戸数は減少しております。

このような状況の下、平成31年3月期第2四半期（累計）の売上高は、室内装飾品関連では主に建設が減少しているマンションの業者への販売が振るわず、また、メディカル関連（平成29年7月に設立した子会社株式会社キュアリサーチが実施している先端医療検査に関わるサービス事業等）では、順調に遺伝子検査の事務代行サービスの規模を拡大させておりますが、メディカルツーリズムの稼働が6月から11月に遅れるなど、当初の予想より減少する見込みとなりました。

また、第2四半期（累計）の利益面におきましては、室内装飾品関連で特別損失として過年度決算訂正関連費用の追加発生（当初は31百万円の見込みが36百万円に変更）により、当初の予想から損失が拡大する見込みとなりました。

なお、第2四半期（累計）の個別業績予想の修正理由は、上記理由と同様であります。

平成 31 年 3 月期の通期の見通しに関しまして、売上高は、室内装飾品関連ではメインブランドであります「サザンクロス」見本帳の大幅改訂により売上高の確保を図り、マンション業者への販売の復調が見込まれますが、現在の情勢から、当初予定していました来年度に予定されています消費税率引き上げに伴う駆け込み需要がほとんど期待できないことから、当初の見込みを挽回するまでに至らないと考えており、また、メディカル関連におきましては、メディカルツーリズムの稼働の遅れが通期においても響き、全体としても当初の予想より減少する見込みとなりました。

また、通期の利益面におきましては、室内装飾品関連で「サザンクロス」見本帳の大幅改訂に伴う見本帳費及び販売促進費用等が増加する見通しとなり、当初の予想から損失が拡大する見込みとなりました。

なお、通期の個別業績予想の修正理由は、上記理由と同様であります。

- (注) この資料に記載しております業績等の予想数値におきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上